

[初夏号]

March
- May

惠泉女子大学園 大学報

Keisen University
2006.5

5月20日(土) 第2回スプリングフェスタ開催!

① 学部ニュース

考える葦

② 惠泉女子園生**③ キャリアセンター**

入試広報センター

学事センター

④ 行事報告

卒業式

学長就任式

入学式

多目的アワー

⑤ 惠泉トピックス

恵泉と地域との結びつき

初夏の花 バラ

スプリングフェスタ2006

オープンキャンパス

学長講演会**「いのちを輝かす—恵泉スピリットとバイオエシックス(生命倫理)」**

5月20日 11:00~12:00

本学チャペル

講師:学長 木村利人

**未来への大きな夢を!**

〈多摩校舎・献堂礎石〉



この大学のキャンパスに来て、すぐに感ぜられるのは、学生も教職員も、優しく、明るく、朗らか、ニコニコ。創立者の河井道先生は「教師も生徒もいつもニコニコしている学校は必ず将来があります」と語っておられます。

豊かな自然環境の中にあるキャンパスでは、卒業生の有志の皆さんのが10年以上にわたりケアをして下さっている美しい花壇が今、花盛りです。

私は、今年の4月1日から新しく学長に就任し、入学式の式辞では、恵泉スピリットの方向付けを、「正しい方へ、美しい方へ」と言う河井先生ご自身の言葉で表現してみました。そのスピリットは、今も、このキャンパスで毎日、生き生きと躍動しているように思います。

「聖書」が正しい方へと人間を導き、「国際平和」の理念が正しい方へと世界を導き、いのちを育てる「園芸」の実践が、美しい方へと人々を導くという、これらが統合された世界的にみても個性的でユニークな恵泉教育が、本学でなされてきています。

そして、この大学こそは新入生の皆さん方にとっての「新しい天と新しい地」であり、その学びの場としてのアカデミック・コミュニティの中に大胆に入って行くようにとのすすめをし、ヨハネの黙示録21章1節の聖句「新しい天と新しい地」を引用しました。

ところが、後で知ったのですが、この聖句は簡明に短縮され「新天新地」という言葉で多摩校舎献堂礎石に彫ってあったので大変に驚きました（左側・写真参照）。更に、黙示録の最終章の聖句「主イエスの恵みが全ての者とともに」あるようにとのメッセージで、式辞をしめくくりました。キリスト者であると無いとを問わず、主イエスの恵みは、全てのものとともにあるからなのです。

恵泉女子大学は、河井道先生の信仰の「志」によって立っている「志」立大学です。

ここで過ごす人生の最も大事な時期を、「正しい方へ、美しい方へ」と導く学問について大いに学び、フィールドワークなどの実践により、未来への大きな夢を育てましょう。



恵泉女子大学・学長
木村利人

<<< News

人文学部

新羅大学との交流

この4月、韓国の協定校である新羅大学校から7名の留学生を迎えるました。例年の1年間滞在予定の2名に加え、今年度より1学期間のみ滞在の短期プログラムに5名が参加しています。新羅大学では所属する学科も違う7名が、生活を共にしながら、日本語と日本文化を学び、また体験することで、日本への理解を深めることを目標としています。帰国後、日本語の教師を目指している学生、国際関係の勉強を深める学生、それぞれにとって、この留学が実り多いものであるよう大学としてサポートいたします。

『ことばと文化をめぐって —外から見た日本語発見記』刊行

本書は人文学部日本語日本文化学科の設立を記念して2004年11月に恵泉女学園大学で行われたシンポジウム「日本のことばとことろ—外からの視座」に基づき刊行されました。日本のことばと文化の関連性について、中国人・韓国人・アメリカ人・ドイツ人・日本人が各々の視点から考察したものです。

〔中田清一・秋元美晴（本学教授）編

ひつじ書房 1,800円〕



<<< News

人間社会学部



「エコ多摩」による寸劇

エコキャンパスの推進に向けて ごみ削減と資源化のために分別回収方法を改定

大学ではごみ・資源をきちんと分別して、ごみを減らすとともに資源化をすすめ、学内からの排出物を減らすよう努めています。4月からは学内に4分別ステーションの設置、食べ残した麺類を捨てるダストポットの新設、フローチャート「学内のごみ・資源の行方」を作成・掲示して、分別の徹底を呼びかけています。

4月6日の新入生フェローシップでは、午前中の全体プログラムの

中で学生サークル「エコ多摩」の寸劇を交えながら、分別方法について説明を行いました。大学側で用意した昼食を小グループに分かれてとった後は、各自が学部毎に設置された臨時ゴミステーションにゴミを持ち寄り、ゴミ分別の実践練習をしました。初めての取り組みに、新入生だけでなく教員も戸惑う場面もありましたが、上級生の指導のおかげで大きな混乱もありませんでした。

「エコ多摩」は3年前から学園祭で発生するゴミの削減を呼びかけ、学園祭当日にはごみステーションを設けて実践を行ってきた学生有志から生まれたサークルです。ここから大学側にごみ分別の要望書が出されたことが今回の回収方法の改定につながりました。このように、学生の中にも環境にやさしいキャンパス推進に向けた積極的な動きが広がりつつあります。今後も、学生と教職員が協力して、環境にやさしいキャンパス・エコキャンパスの推進に取り組んでいきたいと思います。

（人間社会学部助教授 澤登早苗）

考 え る 葦



『出会いの場』

学園本部事務局長
新堀邦司



大学が「学問をする場」であることは説明するまでもない。私は、大学はもう一つの「場」であると考えている。それは「出会いの場」である。大学は学生に多様な「出会いの場」を提供している。新たな友人（学生）との出会い。すばらしい教職員との出会い。こうした人びとの出会いを通して学生たちは驚くほどの人間的成長をとげていく。

恵泉女学園大学は、これらに加えて、さら

なる豊かな「出会いの場」を提供してきた「園芸」を通して自然と出会い、いのちの尊さに触れ、「国際」を通して広く世界の人びと出会い、国際人としての生き方を身につける機会を提供している。さらには「聖書」を通して真理を学び、神と出会うことを大切にしてきた。創立者である河井道先生が示された「聖書」「国際」「園芸」との出会いを大切にしつつ、本学園の特色を一層輝かせてゆきたい。

※
第21回タイ国際
ワークキャンプに参加して

英米文化学科3年
永田朋子

タイワークはおもしろい。11日間という短い期間で、笑って、泣いて、悩んで、考えて、無力さにいらいらとして、楽しんで、助け合って、と本当にたくさんの感情を感じとれるからだ。そんな素敵な時間を過ごせたことを感謝したい。みんな違うところにいても、みんな違うことをしていても11日間を共有した仲間がいるのだ。

これから的人生、辛いとき、悲しいとき、わけもなく悩むときがあるかもしれない。そのような時には目を閉じてタイワークで過ごした日々を思い出し、自分は一人ではなく、たくさん



の仲間がいることを思い出し、勇気と励ましをもらい、再び新たな一歩を歩みだしたい。

※タイ・チェンマイにあるバヤップ大学と共同で、北タイの山岳民族の村で集会所・学校建設などの協働作業を行い、国際理解を深めます。

再び恵泉へ

大学院人文学研究科 国際社会文化専攻1年
根岸朋子

同世代の友達で集まると、決まって出る言葉は「もう30だよ。どうする。」だ。“どうする”には、大まかに2つの意味がこめられている。

仕事を充実させたい、結婚はどうしようか。
私もその内の1人だった。

12月、恵泉中以来の友人からメールが届いた。看護師の彼女は、3月から養護資格を取りに一人北海道の学校へ行くという。“どうする”にはない新鮮さを感じた。信仰を持

つ彼女の凛とした姿は、中高時代は日常だったキリスト教へ再び私を導き、外国籍住民の生活改善に関わる仕事を夢見ていたのに、それを果たしていない自分の存在も気付かてくれた。

今度こそ夢を叶えようと思う。

卒業に寄せて

国際社会文化学科 2006年3月卒業生
中道景子

真実の恵泉を知らず嫌な感情を持ちながら入学した。しかし、4年間、「心」が磨かれた。そして今、すてきな道を歩んでいた。
中道教弘（父） 恵泉という素晴らしい大学だったからこそ、中学から続けてきた勉強も継続でき、名前の通った企業にも就職できたと思います。

うらやましい限りの人生を、これからも持続してほしいと願っています。

中道八重子（母） ハンディである難聴をさらりとかわし、一人の女性として成長させてくださった恵泉に娘が出会えたことに感謝しています。入学当時は、娘と共に、恵泉会のお手伝いを申し出ましたが、いらぬ親心でした。今では私自身が恵泉の大ファン。娘が卒業後は「友の会」に入会しました。恵泉会で一生の友を得ました。



<< Report

キャリアセンター

2005年度卒業生就職状況

就職希望者数 268名

決定者数 265名

希望者に対する決定率 98.8%

就職先企業名等は5月発行予定の「恵泉」誌に掲載します。就職以外の進路は、大学院・他大学・短大・専門学校進学33名、研究生・留学・進学準備15名などでした。

2006年度4年生就職志望状況

	日本文化学科	英米文化学科	国際社会文化学科	人間環境学科	合計
在籍者	106	142	143	86	477
登録者	79	110	112	72	373
その他	27	32	31	14	104

就職も進学もしない学生の指導が今後の課題です。本学では学生の早期からの就職意識向上のため、新カリキュラムでは「キャリアデザイン科目」として「企業実践講座」「ビジネスマナー」を今年度から新たに開講しています。また、就職を控えた3年生向けには、TOEICを学内で実施するとともに、筆記試験対策講座、面接演習講座(ロールプレイ)を開講しています。

<< Report

学事センター

履修と成績について

履修登録や成績についての詳しい説明は、4月に学生に配布した「学生生活ハンドブック」をご覧下さい。

○履修登録 春学期（4月）と秋学期（9月）に各学期の履修登録をします。登録の上限は20単位です。

- 試験 出席に加え、学期末の試験又はレポート提出により、評価を行います。但し次の場合は試験を受けることができません。
- ・履修科目として登録されていない場合。
 - ・授業科目の授業時間数の3分の2以上出席していないため、受験資格喪失者として掲示された場合。
 - ・学費が未納の場合。

○成績 成績は、本年度より8月と3月に保証人・学生の連名宛で郵送します。また翌学期のガイダンス時には学生本人に配布します。

○成績の見かた AA・A・B・C=合格 F=不合格

各学科によって卒業要件がありますが、成績通知書で卒業所要単位数と、本人の取得単位数を確認することができます。

○GPA（成績平均値）

前学期において10単位以上を履修登録し、GPAが3.0以上の場合は、翌学期の履修登録上限が無くなります。（上限の解除）

<< Report

入試広報センター

入試状況

ここ4年間志願者数を伸ばしてきた本学においても、大学全入時代を迎えたと言われる2006年度入試は厳しい結果となり、のべ受験者数は史上最高を記録した昨年比79%に留まりました。学部学科別志願者数・実質倍率・入学者数は以下のとおりです。

2005年度入試結果

学部学科	募集人員	志願者数	合格者数	実質倍率	入学手続き後辞退者数	入学者数
日本語日本文化	70	508	310	1.6	5	86
英語コミュニケーション	70	504	244	2.0	7	84
文化	65	444	377	1.1	7	64
人文学部	205	1,456	931	1.5	19	234
国際社会	110	606	478	1.2	22	108
人間環境	95	552	346	1.6	9	94
人間社会学部	205	1,158	824	1.4	31	202
大学合計	410	2,614	1,755	1.5	50	436

入学手続き後の辞退者数が昨年比10名以上増加しました。

外国人留学生

今年は、AO入試・外国人留学生特別選抜などで、中国・韓国・タイ・台湾・イギリス（香港）から31名の外国人留学生が入学しました。その結果、5月1日現在での私費・国費留学生の在籍は本学開学以来最多の87名（協定留学7名除く）となりました。

国際課スタート

本学では国際交流に関する業務を庶務課・教務課・学生課・英語教育研究センターなどで分担していましたが、この4月から学事センターに国際課が誕生しました。

○外国留学○交換留学○教員交流○外国語学研修業務など、2学部に共通する「国際教育」に関する事務を担当します。

留学生サポート

学生課では、留学生が学生生活を円滑に過ごすために必要な情報をまとめた「留学生の手引き」を充実させ、留学生の生活や在留手続きに関するアドバイス、奨学金、医療費の補助、イベントの紹介などで学生生活をサポートしています。

春学期の主な学事日程

4月12日(水) ● 授業開始

5月1日(月)、2日(火) ● 休講

7月17日(月) ● 通常授業

7月18日(火) ● 授業終了

7月19日(水)～25日(火) ● 集中授業期間

7月28日(金) ● 追試験日

行事報告

2006.3-2006.5

第15回卒業式

3月17日(金) 大口邦雄学長から学位記が授与されました。

学士(人文学)383名 修士(人文学)3名

日本文化学科	英米文化学科	国際社会文化学科	人間環境学科	人文学研究科
61	104	130	88	3

4年次在籍者426名中3月卒業率は89.7% (英米文化学科に3年卒業1名)でした。

なお、卒業生のうち日本語教員養成課程修了者は、主専攻4名、副専攻8名、教員免許状取得者は国語5名、外国語(英語)3名でした。



ランタン贈り

第19回入学式

4月3日(月) 木村利人学長が「新しい天と新しい地」と題して式辞を述べ、学部および大学院462名の入学・編入学を許可しました。今年の入学式は午前・午後の2部制で学部別に実施されました。

人数は以下の通り(協定留学生7名を除く)。

入学生	人文学部234名		人間社会学部202名		人文学研究科6名
	日本文化学科	英米文化学科	国際社会文化学科	人間環境学科	
	86	84	64	108	
3年次編入生	日本文化学科	英米文化学科	国際社会文化学科	人間環境学科	20
	5	7		4	4



●在籍状況

	日本文化学科	英米文化学科	文化学科	国際社会学学科	人間環境学学科	合計
	日本文化学科	英米文化学科		国際社会文化学科		
4月3日在籍数	371	432	132	491	371	1797
学則定員	340	400	130	480	360	1710

4月13日 学長就任式

4月13日(木) チャペルにて第6代学長就任式が行われました。

木村 利人(きむら りひと) 1934年東京に生まれる。早稲田大学大学院法学研究科博士課程修了。博士(人間科学)。チュラロンコン大学(タイ)、サイゴン大学(ベトナム)、ジュネーブ大学(スイス)、ジョージタウン大学(アメリカ)、早稲田大学などで教授。バイオエシックス(生命倫理)のパイオニアとしてWHOなどで国際的にも活躍。早稲田大学名誉教授。著書として、「いのちを考える—バイオエシックスのすすめ」(日本評論社・1987年)、「自分のいのちは自分で決める一生病老死のバイオエシックス=生命倫理」(集英社)、「バイオエシックス・ハンドブック」(法研)「看護に生かすバイオエシックス」(学研・2004年)など多数



大口学園長・学長・一色理事長

多目的アワー

「多目的アワー(木曜日 12:45~13:35)」は学生生活をより充実したものとするための、恵泉ならではのユニークなプログラムです。教員と学生グループが中心になり企画、運営をしています。

2006年度 春学期 多目的アワー一覧

木曜日 12:45~13:35

- 4月20日 ● 1. イースター礼拝
2. クラブ紹介①

- 4月27日 ● クラブ紹介②

- 5月11日 ● ランチタイムオルガンコンサート
演奏: 浅井寛子(麹町聖イグナチオ教会オルガニスト)

- 5月18日 ● ゴスペルコンサート
片岡鶴也牧師(若松栄町教会)

- 5月25日 ● 信和会総会

- 6月1日 ● 「コミュニティ・サービス・ラーニング(CSL)報告会」

- 6月8日 ● 青年海外協力隊説明会
井出悦子氏
JICA八王子連絡員(元ニカラグア村落開発協力隊員)

- 6月15日 ● 「アカペラでアメリカ英語を体験しよう」
クリスティアーナ・クイッククリーブランド先生

- 6月22日 ● 信和会企画

- 6月29日 ● ランチタイムオルガンコンサート
演奏: 近藤岳(オルガニスト・作・編曲家)

- 7月6日 ● 聖歌隊コンサート

- 7月13日 ● 海外渡航時の危機管理

* 5/15~19 キリスト教強調週間

恵泉トピックス

恵泉と地域との結びつき

この5月から月2回、大学入り口付近に小さな焼き菓子店が時間限定で開かれます。地域の社会福祉施設「パサージュいなぎ」の利用者の方々による製品である。マドレーヌ、クッキーなど1月のテスト販売では、学生たちに大人気であった。おいしいお菓子もさることながら、販売担当の施設利用者の方々の笑顔に、学生たちも嬉しげに応える様子が見られるに違いない。

第2回 恵泉スプリングフェスタ 5/20土

恵泉女子大学は05年度から人文、人間社会の2学部となりました。これを機に昨年「恵泉スプリングフェスタ」を催しましたが、来る5月20日(土)、第2回目を開催します。学園同窓生、地域の方々、在学生、家族・保証人の方々、さらに高校生・受験生を含め、恵泉の教育に関心を持つ全ての皆さん、どうぞこの日、多摩キャンパスに足をお運び下さい。教職員が学生と一緒に、恵泉創立の精神、「キリスト教」「国際」「園芸」を軸に、様々な企画を準備しています。主な企画は次のとおりです。



- 木村学長講演会 ●オルガンコンサート・ハンドベル体験 ●シンポジウム「キリスト教とギリシャ文化」・「終戦後の沖縄・八重山における人とモノの移動」 ●フィールドスタディ展示・報告会 ●フェアトレードバザール ●デリック先生作品見学会 ●花壇・ガーデン紹介・展示 ●樹木ツアー・農場ツアー ●宿根草・苗販売 ●オーガニック喫茶 ●アンデス音楽と民族舞踊 ●沖縄音楽「寿」ライブ ●学生フリーマーケット ●恵泉会ミニバザー ●信和会・同窓会・コミュニティサービス展示・販売など

オープンキャンパス

7/29土 8/6日 8/26土 9/9土 10/21土

多摩フェスティバル 11/4土 11/5日

■ 編集後記

就職先は学園の広報誌「恵泉」に掲載しているので、大学報では省略させていただきました。「恵泉」誌は年間5回発行され、学内の目立つところに置いてあります。この大学報を含めて、配布方法を再考中です。

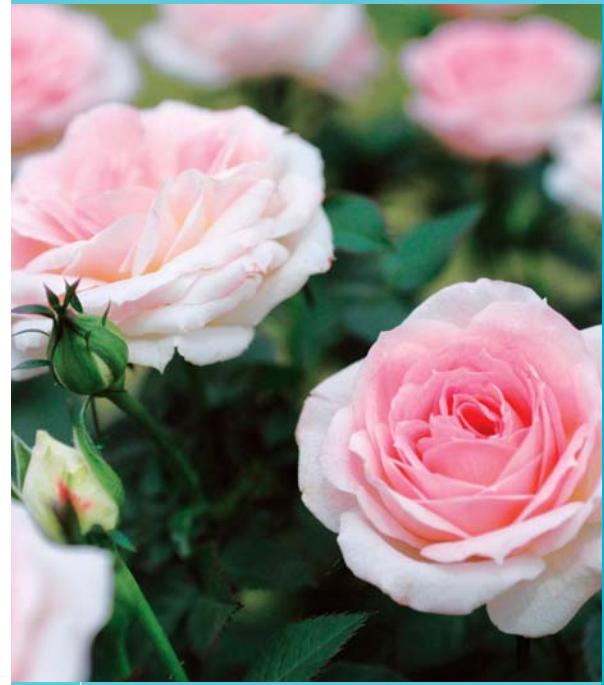
[訃報] 初代学長 村井資長先生逝去

本学初代学長として、「考える大学」「平和をめざす女性の大学」「地球大学」と、本学が進むべき方向を明快に示された村井資長先生(元早稲田大学総長・日本私立大学連盟会長)が3月31日肺炎のため逝去されました。5月9日(火)に本学チャペルにて追悼記念礼拝を行いましたが、5月27日(土)17:30から早稲田奉仕園スコットホールでも記念礼拝・偲ぶ会を開催いたします。



恵泉女子大学

〒206-8586 東京都多摩市南野2-10-1
TEL: 042-376-8211 FAX: 042-376-8218
<http://www.keisen.jp>
(mobile) <http://m.keisen.jp>



初夏の花

バラ

* rose

現代栽培されているバラの大部分は、ヨーロッパから西アジアを原産とする種と、中国や日本を原産とする種が、人の手によって出会い、交配を繰り返して改良されてきたものである。バラの品種改良に本格的に取り組んだ最初の人物はナポレオン一世妃ジョセフィーヌで、マルメゾンの館(現国立博物館)には世界中からバラが集められていた。彼女は夢の中でどのようなバラを開花させていたのだろうか。

(人間環境学科助教授 樋口幸男)